Ⅱ　研究開発の概要

１．研究開発の課題

１）課題

いじめや不登校の未然防止及び不登校生等の学校復帰のための小中連携した教育課程とその指導方法・評価及び学校、教職員、児童・生徒集団のあり方についての研究開発

２）課題設定の理由

中学校で不登校状態にある子どもは、小学校段階からその兆候（遅刻、欠席）があらわれることから、早期より子どもの実態を把握し、不登校児童・生徒等に支援を行っていく必要がある。

社会の変化にともない、子ども自身のストレスをコントロールする力や人間関係をつくる力が弱くなっている。そのような中で、将来の展望や学ぶことの意義を見い出すことができにくくなっている。さらに、昨今の厳しい状況の中で、経済的に厳しい家庭が増え、特にひとり親家庭にとっては深刻な状況となっている。しかも、ひとり親家庭自体も増加の傾向が見られる。

松原第七中学校区（以下、松原七中校区とする）では、このような状況の中で、子どもたちがエンパワーしていくために、幼･小･中が連携して取組を進めてきた。校区での論議を重ね、具体的に次のような力をつけていくことを共通に確認し合ってきた。

・自分の気持ちや思いを伝えることができる。
・本音を出し、他人を信じることができる。
・家庭での会話を大切にできる。
・周りの気持ちを推しはかって行動できる。
・自分の行動が周囲にどのように影響するかという想像力を持つことができる。
・同調圧力に負けず、自信をもつことができる。
・力関係や「もの」に頼らない集団がつくれる。
・学習意欲を自ら高めることができる。

このような論議をふまえ､松原七中校区として､「めざす子ども像」を以下の３つに定めた。

○人の思いを受け止め、自分の思いを表現できる子ども
○自分を見つめ、自分で考えようとする子ども
○人を信じ、人とつながろうとする子ども

松原七中校区として、めざす子ども像を追求するために、
・子ども一人ひとりに対して、「学校での心の居場所づくり」をめざす。
・様々な学びのスタイルや、特色と魅力ある学校行事等の工夫・改善を行う。
・いじめや不登校を未然防止し、不登校生の学校復帰をめざす。
などの取組をすすめる必要がある。

そのため本研究では、次の３点を研究目標として設定することとした。
○松原第七中学校（以下、松原七中とする）とともに、恵我小学校（以下、恵我小とする）・恵我南小学校（以下、恵我南小とする）においても、「ソーシャルスキル」や「出会いと気づきの学習」「アサーティブな人間関係調整力を養う学習」などを系統的に学ぶ「人間関係学科(中学校：略称　ＨＲＳ、小学校：略称　あいあいタイム)」を設定する。
○松原七中校区の小・中学校が連携して、義務教育９年間の「人間関係学科(ＨＲＳ、あいあいタイム)」の学習カリキュラムを研究開発する。
○松原七中においては、完全学校（教室）復帰への中間ステーションとしての「ほっとスペース」を充実し、柔軟で、多面的な教育課程を編成する。そして、そこでのノウハウを小学校での取組に生かす。

また、本市教育委員会が実施する「心の窓にアクセス事業」(情報機器を活用した在宅支援の事業)とも連携を図りながら、学校と地域・家庭を結び、子どもたちの育ちを支援する総合的なネットワークの構築とともに、協働した運営をめざしていくこととする。

以上の取組を通じて、いじめのない、いじめを解決できるような人間関係の向上と居場所のある人間関係づくり・集団づくり(学校、学年、学級)をすすめ、また、不登校生の学校復帰の道筋を明らかにしていく。そして、子どもたちが社会を創造していくための市民性を身につけるために､「アサーティブな人間関係調整力」の育成をはかる等、生涯にわたって活用できるしなやかな精神を培い、「生きる力」を育むことをめざす教育課程の研究・開発を目的とする。

２．研究の概要

松原七中がこれまで研究開発学校として開発した人間関係学科(略称 ＨＲＳ)の学習プログラムを改善し、小・中学校９年間の発達段階に応じた新設教科「人間関係学科」及び不登校生を対象とした「ほっとスペース」を設置し、いじめの未然防止や不登校の未然防止、不登校生の学校復帰を支援するための教育課程及びその指導方法や評価、学校・教職員・子ども集団の在り方について小・中連携して研究を行う。

また、その実践を通じてカリキュラムの有効性の検証を行い、いじめ調査及び、不登校児童・生徒の小学校からの経年変化や長期欠席児童・生徒の欠席状況の変化等を分析する。

１）研究仮説

①「人間関係学科(ＨＲＳ、あいあいタイム)」の新設

恵我小・恵我南小においては、自分に自信が持てない、自分の気持ちを正しく伝えることができない、感情を押さえきれない等、様々な課題が浮き彫りになってきている。その課題を克服するため、「社会生活を送る上での基本的な人間関係力」「自己の感情や行動をコントロールする力」「非攻撃的・協調的に自己主張し問題を解決する力」を育てること等を目標とする「人間関係学科（あいあいタイム）」を設置する。また、遊びや様々な集団活動、その中での仲間とのふれあいを通して、一人ひとりのちがいに気づき、ちがいを認め合える感性を育成していくことも必要であると考えている。そのことは、学級・学校が一人ひとりにとっての居場所となることであり、「いじめをしない、されない、許さない力」を育成することにつながるものと考える。

特に不登校を改善・未然防止するために「自らのストレスに気づき、ストレスを自己コントロールする力」「自己理解を通して、相手を受け入れ、自己表現しながらあたたかい人間関係をつくる力」等を育てることは喫緊の課題である。これらの力は、もちろん「道徳の時間」や「特別活動」、「総合的な学習の時間」など学校教育全般の中で育成される面もあるが、さらに、子ども一人ひとりの現状を分析し、年間を通して系統的に実施する必要がある。

松原七中においては、平成１５年度から１７年度の３年間において、ライフスキルの習得をめざす学習を通して、自分を大切にし、良好な人間関係をつくり出すことを目標とする「人間関係学科(ＨＲＳ)」の中学校３カ年間(年間３５時間、合計１０５時間)の学習カリキュラムを作成し、作成した学習プログラムにのっとって、指導を行ってきた。

今後は、これまで開発した１０５時間のプログラムを、小学校６年間の接続における観点やいじめの未然防止や解決する力を育成する観点からも改訂を図っていく。

② 中学校「ほっとスペース」における弾力的な教育課程の編成

・不登校生が完全学校復帰をめざす中間ステーションとしての「ほっとスペース」では、音楽や美術等情操教育の時間を多めにとり、対象生徒の興味や関心に応じて教科の時間を弾力的に編成し、学ぶ意欲を高め、学力への自信がもてるようにする。

・原則的には、国語・社会・数学・理科・英語・「総合的な学習の時間」から、合計２４０～２６０時間を削除し、「人間関係学科」を１９０時間、そして音楽・美術を各７０時間実施する。そして、教科等の指導と並行して、スクールカウンセラーや養護教諭とも連携しながらストレスマネジメントや人間関係づくりのプログラムを通して、学校復帰をめざし、地域の人々との出会いや、ボランティアなど地域活動への参加も考慮する。

・不登校生が完全学校復帰をめざす、中間ステーションとしての「ほっとスペース」では、一人ひとりの生活や心身の状況を把握し、入級時期等も考慮し、対象生徒一人ひとりに応じた形で、弾力的な教育課程を編成する。

２）教育課程上の特例

○小学校の開設時間は３年～６年で「総合的な学習の時間」より３５時間を削減し、「人間関係学科」を年間３５時間実施する。
なお、１年～２年は教育課程を変更せず、特活等の時間内で１５時間程度「人間関係学科」を実施する。

・６年間のカリキュラムを系統的に編成し、計画的に実施する。

○中学校の開設時間は「総合的な学習の時間」より３５時間を削減し、全学年「人間関係学科」を年間３５時間実施する。

・３年間のカリキュラムを系統的に編成し、計画的に実施する。

３）研究計画

第一年次	**研究目的・研究仮説・研究方法の調査と具体化** ・児童・生徒の実態を分析し、育成する子ども像を明らかにするとともに先進的な研究と実践についての調査・研究（校区あいあいプロジェクトチーム） ・教職員のカウンセリングマインドとスキルの向上をめざした校内研修会・校区合同研修会の実施 ・９年間の「人間関係学科(ＨＲＳ、あいあいタイム)」の学習プログラムづくり ・中学校「ほっとスペース」のカリキュラム整備と人的・物的両面の環境整備 ＜人間関係づくりや学習支援プログラムの研究開発＞ ・カリキュラムの実施と結果の分析 ・２年次のカリキュラム等の検討及び年間指導案の作成 ・不登校児童・生徒への「心の窓にアクセス事業」等活用の在り方 ・地域、保護者、関係諸機関と協働した指導とそのネットワークづくり
第二年次	**カリキュラムの本格実施とデータの蓄積** ・教職員のカウンセリングマインドとスキルの向上をめざした校内研修会、校区合同研修会の推進 ・９年間の「人間関係学科(ＨＲＳ、あいあいタイム)」の学習プログラムづくり及び指導方法の確立と評価規準の作成 ・ひきこもり傾向の不登校児童・生徒への「心の窓にアクセス事業」等活用の強化 ・中学校「ほっとスペース」の指導方法の充実 ＜学習支援プログラムの確立や担当教員の育成＞ ・地域、保護者、関係諸機関と協働した指導とネットワークの推進 ・中間まとめの研究発表を通して、研究の有効性の検証と最終年度の課題の明確化 ・最終年度の学習プログラム等の検討
第三年次	**調査・研究の実施と成果のまとめ、及び、報告** ・９年間の「人間関係学科(ＨＲＳ、あいあいタイム)」のカリキュラム・指導方法・評価規準のまとめ ・中学校「ほっとスペース」のカリキュラムや指導方法等のまとめ ・「人間関係学科(ＨＲＳ、あいあいタイム)」を教育課程に位置づけていくための、人間関係学科の核を確定 ・子どもの発達段階に応じた「人間関係学科(ＨＲＳ、あいあいタイム)」の領域作成 ・Web ページなどを活用した「人間関係学科(ＨＲＳ、あいあいタイム)」・不登校生等支援に関する校区外への発信と交流 ＜学習支援プログラムの確立＞ ・情報機器を活用した総合的な支援プログラムの確立と担当者の役割の確立 ・地域、保護者、関係諸機関と連携した指導の実践とまとめ ・最終年度の研究発表会を通して新しく設定した教科等の可能性と課題について報告 ・小学校、中学校における人間関係づくりのための授業における指導指針の作成

ＨＲＳの教具を収納している通称ＨＲＳ部屋
（松原七中）